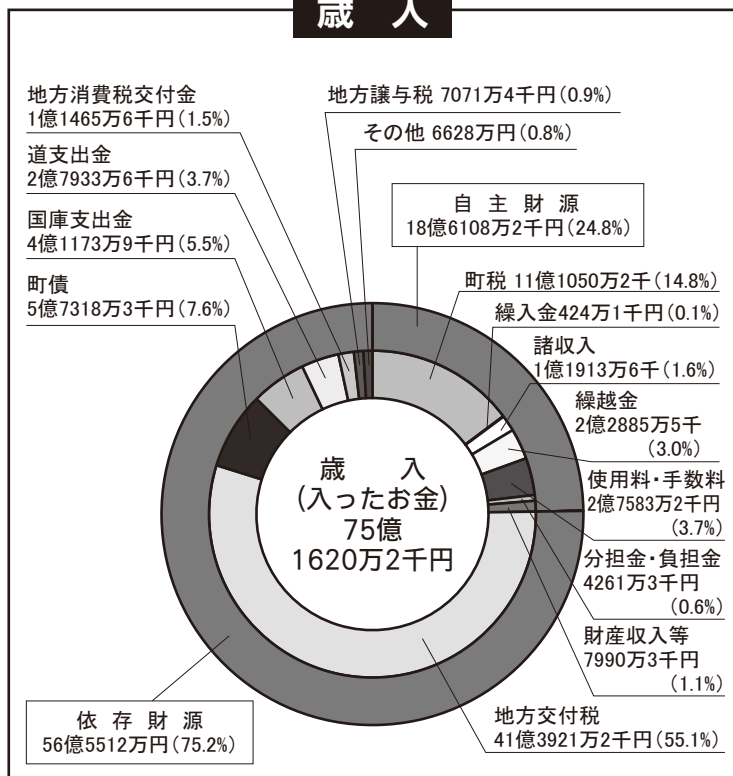


歳入



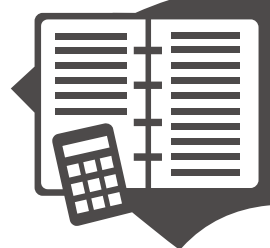
洞

平成25年度の一般会計・特別会計(国民健康保険・下水道事業・介護保険・簡易水道事業・後期高齢者医療)、水道事業会計の決算が9月議会で承認されました。

爺湖町では、持続可能な財政基盤の確立と収支のバラ

平成25年度決算の概要

まちの家計簿



■問合せ
税務財政課財政グループ
☎74-3003

生活利便性向上など町民生活に密着した各種施策・事業を積極的に展開しました。

平成25年度のまちの家計簿(決算状況)を見てみると、財政改革などを着実に実施した効果により、町の貯金である基金を取り崩すことなく、当該年度の収入で支出を賄うことができる財政運営を昨年度に引き続き行うことができました。

また、健全化判断比率の財政指標である実質公債費比率、将来負担比率が、いずれも前年度より改善し、財政状況は徐々にではありますが、良好な状態に向かっています。

しかし、公債費(借金)が、年々減少しているものの依然として多額で推移しており、町の財政を圧迫している状況にあります。

収支の状況

一般会計

歳入決算額

75億1620万2千円
(対前年度4・4%増)

歳出決算額

73億2588万7千円
(対前年度5・1%増)

平成25年度の一年間に、町に入ったお金(歳入)75億1620万2千円から使ったお金(歳出)73億2588万7千円を差し引いた額は、1億903万1千5千円で、25年度から26年度への繰越事業に必要な額381万3千円を差し引くと1億8650万2千円が実質収支となりました。

決算額増加の主な要因は、爺湖町土地開発公社の解散により、町が代位弁済したことによる補助費、普通建設事業の実施による投資的経費の増などによるものです。

●地方交付税は、41億3921万2千円で8339万3千円の減(前年度比2・0%の減)

市町村に生じる財政力の格差を調整するために国から交付されるのが地方交付税です。歳入

全体に占める地方交付税の割合は、25年度決算では55・1%となり、町税収入(町民税や固定資産税など)の14・8%を大きく上回り、町にとっては欠かせない貴重な財源となっていますが、各項目を算定する際の単位数の減などにより、前年度比で2・0%の減となりました。

町税をはじめ町が独自に確保できる町の自主財源は、町全体の収入の24・8%であり、残りの財源を国や道からの支出金などが占め依存財源の割合が75・2%と高くなっています。

●町債(町の借金)残高は、102億1634万5千円で5億3985万6千円の減(前年度比5・0%の減)

平成25年度の決算では、町債の発行額は5億7318万3千円で、前年度比で2億5518万6千円の増となりました。借入増の主な要因は、洞爺湖町土地開発公社の解散のために町が借入した第三セクター等改革推進債の増などによるものです。

一方、町債の償還額(利子を含む)は、12億7481万9千円で、町債残高は、平成24年度末の107億5620万1千円から5億3985万6千円減少